

平成27年度 第4回北見市地域公共交通会議 会議録

◎日 時	平成27年11月17日（火）午後2時00分～午後2時55分
◎場 所	北見市役所 北2条仮庁舎 3F 庁議室
◎出席者	会議委員：浅野目会長、高橋副会長、山村委員代理（服部部長）、 佐藤（忠）委員、佐藤（浩）委員、広川委員、 長南委員、小林委員、池田委員、久原委員、 平森委員代理（神尾副所長）、高橋委員、香川委員、高畑委員、 佐藤（隆）委員代理（松本次長）、志賀委員 北海道開発技術センター：芝崎氏 事務局：船戸企画財政部次長、田中地域振興課長、 杉浦地域交通係長、海辺主事補

開 会

田中課長 : 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、平成27年度第4回北見市地域公共交通会議を開催いたします。始めに11月12日付で市の人事異動があり、会長であります企画財政部長に異動があり、辻前部長の後任として浅野目部長が着任しております。本来であれば本日の会議にて市長から委嘱状を交付させていただくところですが、市長が他の公務のため会議への出席が出来ないことから、委嘱状については、昨日、市長より交付をさせていただいたことをご報告いたします。それではここで浅野目会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

浅野目会長 : 皆様こんにちは。ただ今、ご紹介をいただきました企画財政部長の浅野目です。辻前部長の後を受けまして、当地域公共交通会議の会長という重責を担うこととなりました。委員各位のご協力をいただきながら、会議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。委員の皆様には何かとご多忙の中、本日、このようにご出席をいただいたこと、また、日頃より北見市の公共交通の推進に多大なるご尽力、ご理解をいただいていることに対して、心よりお礼申し上げます。私も以前、この地域公共交通会議の立ち上げ、また、交通計画の作成を始め、わかかバスの運行や夕陽ヶ丘線の新設、また、交通マップの作成などに携わらせていただきましたが、今回改めて、また皆様と共に北見市の公共交通をより良い方向に進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。本日はレジュメにある報告事項、そして協議事項を予定していますので委員各位の忌憚のないご意見等をいただきたいと思いますと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ここから私の方で議事を進めさせていただきます。まず、はじめに会議の成

立について事務局からお願いいたします。

田中課長 : 本日の出席委員数は、18名中16名です。北見市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席がありますので、本日の会議が成立することをご報告申し上げます。なお、松田委員、桑原委員につきましては欠席する旨の報告を受

けています。また、山村委員の代理として服部部長が、平森委員の代理として神尾副所長が、佐藤委員の代理として松本次長が出席していることをご報告申し上げます。以上です。

4. 報告事項（1）公共交通利用促進について ①夕陽ヶ丘線を対象とした利用促進策

浅野目部長 : それでは議事に入りたいと思います。4の報告事項（1）公共交通利用促進についてを議題とさせていただきます。はじめに夕陽ヶ丘線を対象とした利用促進策について事務局より説明をお願いいたします。

芝崎氏 : 北海道開発技術センターの芝崎と申します。私の方から資料に基づき高齢者クラブ等を対象としたバスの乗り方教室について説明させていただきます。

1ページ目です。夕陽ヶ丘線の利用促進ということで、今回は高齢者クラブを対象としたバスの乗り方教室を実施しました。実際、高齢者の方でバスを利用される方もいらっしゃいますが、まだバスに乗ったことない方、まだ馴れ親しんでいない方もいるというお話が幹事会の方でありまして、今回は夕陽ヶ丘線沿線における高齢者クラブ等と連携した形でバスの乗り方教室を実施しました。概要ですが、開会、本日の流れということでスケジュールの説明後、約30分程、車と健康、車と事故のテーマで座学を行いました。その後10分ほど休憩・移動を行いまして、実際の車両を使ってバスの乗り方の説明、夕陽ヶ丘線の運行区間をバスに試乗していただき、どのような買い物施設・病院があるのかを実際に利用者の方に見て知っていただきました。最後に10分ほどアンケートをお願いしました。

3番目は実施日です。今回、2つの高齢者クラブで実施しました。一つが双葉高齢者クラブです。こちらは平成27年10月20日の午前中、午前9時から11時までの2時間で実施をしました。柏陽ヶ丘高齢者クラブは10月26日の午後1時から午後3時までの2時間で実施をしました。高齢者クラブの選定にあたっては、北見市老人クラブ連合会を通して協力要請を行いました。

2ページ目は、各高齢者クラブの活動拠点と会場です。今回、三輪方面と柏陽ヶ丘方面の2か所で実施をさせていただきました。

3ページ目です。プログラムの詳細について説明させていただきます。座学についてですが、パワーポイントを使って説明させていただきました。生活の足を考える出前講座と題し、不便な公共交通と便利な車という一般的な認識を説明した上で、過度に車を使うことで起こる個人的・社会的な問題についてお話をさせていただきました。内容についてはCO2排出による環境の問題、車を使うと運動が少なくなるという健康の問題、車の維持費、交通事故に関することを説明させていただきました。②がバスの乗り方教室についてです。今回は基本的に高齢者の方でしたので、北見市バス乗車証を使った乗り方の説明をさせていただきました。会場付近に北見バス様に車両を持ってきていただき、方向幕の見方、乗降するドアや、車イス用の設備も説明いただきました。実際にバスに乗車いただくように体験していただいた上で、バス乗車上の注意点も説明させていただきました。夕陽ヶ丘線の試乗においては、各会館から夕陽ヶ丘線の路線を走行したという形です。車内ではバス停ごとの近くにある病院や買い物施設等を紹介させていた

だきまして、実際の利用をイメージしながらバスに乗っていただきました。

4ページ目が実施した際の写真です。こちらは双葉高齢者クラブで、場所は双葉町の高齢者福祉会館でした。参加者の人数は23名で、座学の様子から、車両の確認、乗車の状況ということで掲載しています。なお、乗り方教室においてバス車内での施設紹介は北見バスのスタッフの方をお願いしました。

5ページ目は、柏陽ヶ丘高齢者クラブでの実施状況となっています。こちらでは18名の方に参加していただきました。

6ページ目からは、参加いただいた方へのアンケート調査の結果となっています。今回、アンケートの目的として、参加いただいた方の車の利用頻度や路線バスの利用頻度、また、乗り方教室の評価を行いたいと思いアンケートを実施しました。実施方法は、乗り方教室終了後、最後にアンケートを実施し回収しました。内容は個人属性から車の利用頻度、また路線バスの利用状況や乗り方教室の印象、公共交通に関する意識意向を把握しました。

7ページ目がアンケート結果となっています。回答件数ですが、柏陽ヶ丘高齢者クラブについては18名の方に参加いただきましたが、16名の方からの回答となっています。性別に関しては女性の方が6割強ということで、女性の方が多く、年齢についても75歳から79歳ぐらいの方が多いという状況です。居住地については緑町、並木町、双葉町から参加される方が多かったです。これは高齢者クラブに所属されている方なので、周辺に住んでいる方が多く、職業も、無職の方が7割という状況でした。

8ページ目が保有している免許ということで、約3割以上の方が免許を保有していますが、保有していないという方も41%いる状況です。車の保有状況は約半数の方が、自分専用の車があるという状況でして、ないという方は0%でした。回答なしという状況かもしれませんが、自分は免許がなくても旦那さんが所有しているなど家には車があるという状況です。車の利用頻度においては、週に1日から2日くらいが約4割ということで最も多い回答でした。その他、ほとんど毎日という方も3割おり、かなり車を利用されているようです。車の利用目的は買い物最も多く、次に通院という状況です。また、何歳まで運転しますかという質問の回答においては、80歳頃までということで、その他が34%、85歳までが26%ということでした。近い将来、車についてはそろそろやめようと思っている方がいらっしゃるようです。

9ページ目は路線バス利用状況です。11番の路線バスの利用頻度です。最も多いのが週に2日から3日の17.9%です。週に1日くらい、または月に2日から3日くらいという方が12.8%で、ほとんど毎日利用している方はいません。現在あなた自身の生活にとってバスが必要ですかという質問の回答については、27名の方にご回答いただき、約半数の方がとても必要と回答しています。やはり女性の方が多かったのも、車の運転をされない女性にとってバスは重要だと考えられます。また、今後あなた自身の生活においてバスが必要ですかという質問の回答においては、とても必要という方が88.5%で、男性でも80歳から85歳頃まで運転をすると回答された方も今後は必要だと回答している状況です。北見市において公共交通であるバスは必要ですかという質問については、91.7%の高い数字で、とても必要と回答されております。

10ページ目は乗り方教室に対する評価です。乗り方教室で最も印象に残ったものは何ですかという質問の回答において、環境の話が11名で23.9%、次に健康の話が10名、夕陽ヶ丘線沿線の施設も10名で共に21.7%という結果でしたが、概ねどの内容についても印象に残ったという回答をいただいています。14番は公共交通等に関する意識の向上ということで、全体的に意識が向上しておりますが、最も高く現れたのが、バスへの関心が高まったと思いますかという質問の回答において、強くそう思うという方が8割いらっしゃいました。環境のことを考えて車の利用を少しでも控えてみようと思いますかという質問に対して、強くそう思う、または思うという方も5割。環境の話が印象には残ったのですが、なかなか向上につながるということは全体から見ると低い状況かと思えます。一方、ご自身の健康や安全のことを考えて車の利用を少し控えてみようと思える、または、そう思うという方は7割以上。やはり健康や安全という意識は高いという結果でありました。

簡単ですが、高齢者クラブで実施した乗り方教室の報告を終わらせていただきます。

浅野目会長 : 　ただいま、夕陽ヶ丘線を対象とした利用者促進策ということで、2回実施された高齢者クラブを対象としたバスの乗り方教室について、事務局の方からご報告がありました。今年度からの新しい取り組みでしたが、これに対してご質問等がありましたら、お受けしたいと思いますがいかがでしょうか。何かございませんでしょうか。

高橋副会長の方からアンケート調査の結果を見ながら何か感じたことがあればお願いできますか。

高橋副会長 : 　9ページ目のバスの必要性というところで、高齢者の方も今は必要ではないという方もいますが、今後必要になってくるといって方が増えているので、やはりこのままじゃダメだという意見があると思いました。それは高齢者にとっても自分の足の確保が重要だということが、この差で分かると思います。問題なのは、8ページ目の運転する年齢が何歳までかというところで、これはいつも警察の方ともお話するのですが、85歳を超えて運転をするのは、かなりリスクが高くなってしまいますので、このあたりをどのように割っていくのが必要だと思います。その前の7ページ目で年齢とクロスしてみないと分からないのですが、60歳、70歳代の人たちが85歳までで、80歳から84歳の人たちはどう思っているか、そのあたりは回答なしになってしまっているのか、今、自分が本当に危険だと思って乗っているのか、まだまだ大丈夫だと思っているのか、このあたりを少し分かるようにしておく必要があると思います。大事なのは、これを良いきっかけに公共交通に目を向けていただいたということだと思います。これをきっかけに1ヶ月後、2か月後、実際にバスに乗ってみたかどうか、行動に移ったかどうかが大切だと思います。意識として高くなったというのは大事なのですが、行動に移ったかどうかを見ておく検証が必要かと考えます。

浅野目会長 : 　ありがとうございます。他に何かご意見等ございますか。
今回、参加された方について、その後、バスに乗ったかどうか事後調査は何か考えていますか。

芝崎氏 : 　高齢者クラブを通して参加された方に、その後のアンケートをお願いしたいと思っていますので、そのような形で事後評価を取れるよう調整していきたいと思っています。

浅野目会長 : 事後評価として、高齢者クラブ通じて改めてアンケート調査を実施したいということでした。1つ目の件についてはよろしいでしょうか。

4. 報告事項(1) 公共交通利用促進について ②北見市交通マップの見直し

浅野目会長 : それでは、次に2つ目の北見市交通マップの見直しについて事務局より説明をお願いいたします。

芝崎氏 : 私の方から説明をさせていただきます。

お手元に資料2とA2版で、今回、修正したバージョンのマップをお持ちいたしました。そちらと照らし合わせながら、ご確認いただければと思います。

資料2の1ページ目ですが、6月12日、8月12日の幹事会、また8月28日の公共交通会議での検討事項ということで整理しています。まずは、大幅な見直しを行わないということ、現行のマップを基本として、目的地別行き方ガイドの見直し、時刻表のQRコードを追加するというお話をさせていただきました。目的地別行き方ガイドにおいてはレイアウト等を分かりやすくし、市民プール・パラボ・北見市バスターミナル等の駅周辺をひとつにまとめて追加したらどうかというお話でした。また、QRコードを追加し、運行便数を削除し路線名を2列にするなど省スペース化を図ることもお話にありました。QRコードについては、ホームページにつながるQRコードを掲示するということでした。

そのほか、相内・上ところ地区・仁頃地区の詳細図が掲載されていましたが、運行する路線バスのバス停の連続性や地理的な場所を分かりやすいように表記しようということとなりました。

3ページ目を見ていただき、北見自治区の地図で修正した箇所を見比べながらお話をさせていただきます。真ん中上段にQRコード簡単検索時刻表はこちらということで、QRコードを掲載しております。こちらはスマートフォン等でかざすと北見バスのホームページにリンクします。また、仁頃地区・相内地区・上ところ地区等の拡大図については、A・B・Cをふり、その場所がどこにあるかを地図上に矢印で載せています。そこがどこの詳細図か、つながる形にし、位置が分かりやすいように特記したことが、北見・端野自治区の修正点です。

5ページ目です。北見市交通マップと書いている緑色の表紙の地図と見比べながら、確認してください。常呂自治区・留辺蘂自治区・温根湯温泉地区については、路線名の下に起点終点を表記しました。前回の地図だと一覧で路線名が表示されていましたが、省スペース化を図り、分かりやすくするために表記しています。また、厚和線については運休と書かせていただき、スクールバスに乗車可能と表記しています。また、目的地別行き方ガイドと支払方法が上下逆になりましたが、これはスペースの関係でそのように修正しました。支払方法についてということで、A2の地図面でスペースが空いているところがありますが、ここには北見市中心街の100円引き区間の図が入り、ICカードの情報を少し充実した形での掲載を予定しています。また、一番下にはQRコード簡単検索ということで、ここにもQRコードの情報を掲載しています。

資料2の7ページ目ですが、目的地別行き方ガイドの修正点です。路線名が一番左側

にあり、右側にバス停、さらに一番右に施設名という表示になっていましたが、目的地から路線を検索できるように、一番左側に目的地である施設名を表示しました。その近くのバス停とそこに行き着く路線名というような形での表記に修正しています。また、駅周辺ですが、大通り、または北見バスターミナルに停車しない路線の方が少ないので、停車しない路線という書き方で表示をし、それ以外は駅周辺に行けるといような表示になっています。大きい修正点は以上です。

その他、8ページ目に細かな修正点も記載しております。基本的なバスの乗り方のところから大人運賃、子供運賃を記載したり、タクシー会社の連絡先の修正、タクシーの初乗り料金の修正、また、中型車の運賃は現在ないので削除しました。また、遠距離割引を追加しました。地図面においては、ヤマダ電器の移転、温水プールや端野小学校も新しく完成しましたので、こちらも情報を更新しています。さらに、温水プール入口というバス停名の運動公園への変更や、タクシー乗り場の変更というものもいくつか行っています。

表紙につきましては、リニューアルしたのが分かるような表紙デザインの変更を検討しているところです。

浅野目会長 : 前回の会議時に見直し案について協議いただき、既存マップの情報の更新と一部に新たな情報も盛り込んだ、より使いやすいマップとなるよう、現在作成中の交通マップについて説明がありました。お手元の資料をご覧ください、ご意見等がありましたら、ご発言をいただければと思います。いかがでしょうか。

佐藤（忠）委員 : 常呂自治区の路線図の中でオレンジ色の網走常呂線の終点がサロマ湖栄浦となっているので、常呂バスターミナルに訂正をお願いします。

浅野目会長 : その他に何かご意見等ございますか。

佐藤（浩）委員 : 留辺蘂自治区で、留辺蘂運動公園線の終点が留辺蘂公園となっていますが、こちらの表記で十分ですか。

浅野目会長 : 留辺蘂自治区の終点が留辺蘂公園となっていますが。

芝崎氏 : 後ほど改めて確認をさせていただきます。

浅野目会長 : 今の点については再度確認の上、違っていれば修正をさせていただきます。他に何かお気づきの点はありますか。

佐藤（浩）委員 : 温根湯線で、現在、道の駅となっているところも修正をお願いします。

浅野目会長 : その他いかがでしょうか。

高橋副会長 : 連絡先ですが、北見バスの連絡先は営業所ということですね。

山村委員代理 : はい、そうです。

高橋副会長 : 代表ということですね。これは24時間対応ですか。

山村委員代理 : 24時間対応ではございません。

浅野目会長 : 本日、見てすぐにとするのも難しいと思います。まだ時間がありますので、目を通していただいた上で、後日、何かお気づきの点がございましたら、事務局までお持ちいただければと思います。それでは、このような形で引き続き作業を進めさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

5. 協議事項（1）地域公共交通確保維持改善事業・事前評価について

浅野目会長　：　次に5の協議事項（1）地域公共交通確保維持改善事項・事業評価について、事務局より説明をお願いします。

杉浦係長　：　私の方から説明をさせていただきます。公共交通確保維持改善事業補助金につきましては、バス路線夕陽ヶ丘線が平成23年度から、また川東・若松地域コミュニティバスが平成26年度から、こちらの補助制度活用させていただいています。

資料3の1ページをお開きください。こちらは地域公共交通確保維持改善事業実施要領抜粋となっています。1項から5項については略していますが、6項に事業評価についてとあります。地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、協議会自らによる事業の実施状況の確認、評価を行い、当該自己評価の結果を補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに、それぞれの協議会から地方運輸局に報告するとともに、公表することとされています。地方運輸局においては、協議会の評価を基に、2月末までに2次評価を行い、協議会に対して2次評価結果を通知するとともに、必要に応じて事業計画の見直し等を求め、協議会では2次評価結果を踏まえ、必要に応じてネットワーク計画、後続事業又は地域の取組等に反映させることとされています。交通会議では、通知された結果に基づき、必要に応じて事業計画の見直しを行い、6月末までに提出される平成29年度地域内フィードバックシステム（維持計画）に反映することとされています。

3ページをお開きください。こちらは事業評価表です。上段が夕陽ヶ丘線、下段が川東・若松地域のコミュニティバスとなっています。①補助対象事業者等は、どちらも北海道北見バス株式会社となっています。②事業概要については、夕陽ヶ丘線が小泉8号から夕陽ヶ丘通りを経由して西8号線から国道39号に行き、西6号線から夕陽ヶ丘線を経由して小泉8号までの路線となっています。一方、コミュニティバスは北見バスターミナルから川東住宅街を経由して、北見老人ホームまでが定時停路線の運行、その先、川東の東8号及び若松休養村センター方面がデマンド型運行となっています。③前回の事業評価結果の反映については、夕陽ヶ丘線では、マイカーから公共交通への転換を促すための行動プラン法を用いた利用促進策を実施したほか、北見市の身近な交通情報を掲載したニュースレターを発行し全戸に配布しました。また、コミュニティバスについては、ニュースレターに当該路線の運行情報を掲載し、発行・配布をしています。④事業実施の適切性については、両事業とも計画通り適切に実施されています。⑤目標、効果達成状況については、夕陽ヶ丘線は利用目標1日363人に対し、実績は368、91人で、端数処理を行い1日368人で目標に達しています。

4ページに月別の輸送人員を掲載していますが、下段をご覧くださいと思います。平成26年度と平成27年度の10月から4月までの冬季と5月から9月までの夏季の実績を記載しています。平成26年度は冬期の利用者が5,500人増加しているものの、夏季においては高校生の自転車通学による影響等から4,500人程の減少が見られました。今年度は冬季、夏季ともに利用者数は増加となり、夏季においては約4,500人の増という結果となりました。

3ページに戻っていただき、コミュニティバスについては、利用目標1日34人対し、

実績は36,83人で、端数処理を行い36人ということで目標に達しています。

5ページに、月別の輸送人員を掲載していますが、年度における総輸送人員も平成26年度は12,580人、平成27年度は13,335人で755人の増という結果となっています。なお、デマンド区間の利用状況については、平成26年度は年間1,019人、27年度は26人増の1,045人ということで、ほぼ同程度の利用状況となっています。⑥事業の今後の改善点については、夕陽ヶ丘線は今後も沿線住民への啓発活動等による利用促進に向けた取り組みを展開し、潜在需要の掘り起こしに努めるということで記載したところです。コミュニティバスについては、今後も利用実態の把握、利用者の意見聴取等を行い、利用促進に努めるとしたところです。説明は以上です。

浅野目会長 : ただいま、地域公共交通確保維持改善事業の補助金を活用して運行している、夕陽ヶ丘線、コミュニティバスにつきまして、平成27年度の運行が終了したことから、この交通会議で事業評価を行い、運輸局の方に提出するというところで説明がありました。

ただ今の説明に対し、ご質問・ご意見等ありましたら、ご発言お願いしたいと思います。

高橋副会長 : 夏の間は自転車の利用が増えるので、バスの利用者自体は減っていくというのが一般的な傾向ですが、今回、27年度の夏季は44,000人に対し4,500人アップということですから1割上昇ということですか。これはどういう理由が考えられますか。

杉浦係長 : 増加があった部分については、夏場に雨天が多かったことが影響しているのではないかと考えています。

浅野目会長 : 天候以外で考えられる要因というのは。

杉浦係長 : 高齢者の乗車と定期券の利用者が増加しており、これまでの利用促進策の取り組みも利用者が伸びた要因のひとつではないかと考えています。

高橋副会長 : 10%というのは誤差の範囲ではない幅だと思しますので、もう少し原因を分析して、来年度に向けて具体的に何をフィードバックして考えていけばいいのかが重要だと思いますので、天候等の外的な要因もありますが、もう少し中身の分析が必要だと思います。

浅野目会長 : ありがとうございます。

佐藤（浩）委員 : 実際、乗務をしていて感じられるのは、日赤看護大生、北見工大生の利用が非常に多い時があり、大型車に乗り切らないのではないかとこの時もあります。その他にも、柏陽高校や北斗高校などの学生の利用が多くなったと感じています。事務局の方もおっしゃったように、天候も関係もあるのではないかと思います。

浅野目会長 : ありがとうございます。高橋先生からあったように、微増ではなく非常に大きい増ということで、夕陽ヶ丘線の利用促進策などの色々な取り組みをしてきた成果なのか、また、今、言われたように、天候の影響もあり、学生さんが多く乗られたというようなことも含めて、今後の運行にも役立つことになるかと思しますので、事務局にはその辺についての分析をしっかりとっていただきたいと思えます。

他に何かご発言等ありませんか。ないようですので、事務局から説明があった内容で提出をするということで、ご承認をいただきたいと思えますが、よろしいでしょうか。それでは、ご承認をいただきましたので、運輸局の方に提出させていただきたいと思えます。

6. その他

- 浅野目会長 : 次に、その他に入りたいと思いますが、委員の皆様方より、ご発言等あればお願いしたいと思います。
- 長南委員 : 最近、市の方で方針が出まして、高齢者パスの有料化の問題が出ていましたが、どのような内容であるのか、また、そのことが今後、この会議において議題とされていくのかということをお聞きしたいのですが。
- それともうひとつは、この会議の目的からずれているかもしれませんが、JR石北線の減便問題、留辺薬駅の無人化問題などは、公共交通を考える上で極めて必要な問題だと考えています。これらの問題に関して、この公共交通会議ではどのような論議が出来るのか、あるいはしていくべきなのか、そこら辺をどのように考えていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。
- 浅野目会長 : ひとつは高齢者・障がい者の無料バスの関係について、答申を受けたがどのような内容だったのか、市として、今後、どのような扱いをしていくのかということ、もうひとつは、JR石北線の減便や無人化の問題等についての、交通会議での扱いについてのご質問だったと思います。ひとつ目については市の保健福祉部長がいらっしゃいますので、お話をさせていただいてもよろしいでしょうか。
- 保健福祉部 : 現在、高齢者等に対するバス助成事業の見直しを進めています。先週11月19日に答申を受けました。答申の中身については、今回の答申においては、具体的に触れられておりませんが、本市で行ったアンケート調査においても、利用出来る・出来ないについては公共交通の拡充や他の取組みについてご意見があったところです。それについては、交通会議で議論することは難しいと思っておりますが、アンケート結果につきましては提示させていただきたいと考えています。
- 田中課長 : 2つ目のJRについてですが、公共交通会議は道路運送法に基づいて設置をさせていただいていることから、協議については運賃の部分をメインにお話をさせていただいております。情報提供としてお話出来る範囲でお話させていただきます。
- 当初、JR北海道から1市2町、北見市・遠軽町・美幌町に駅の廃止や無人化の説明がありました。北見市については、留辺薬駅の無人化、また金華駅を廃止したいということで、それぞれの駅での乗降人数の提示がありました。駅の利用人数が少ないということで廃止や無人化を行っていきたいという説明があり、その後、沿線の美幌町、遠軽町と1市2町でJR本社に対して要望書を提出しています。その後、普通列車の減便についても話があり、管内全体で組織されるオホーツク圏活性化期成会においてJR本社及び北海道に対して要望を行っております。JRとしては、12月には3月のダイヤ改正の発表をしたいという話もありました。無人化により留辺薬駅の利用者に大きな影響がないよう、定期券の販売や切符の販売等の手法についても、協議検討をしている状態です。
- 浅野目会長 : アンケート調査については資料を提供していただけるということです。答申を受け、現在、市としての検討を進めている段階ということです。
- 長南委員 : この会議の成り立ちからすると違うかもしれませんが、やはりバスの利用促進と無料バスというのは極めて近い中身であると思いますので、何かしらの議論があってはいい

のではないかと思います。老人クラブも多く利用されていますし、地域代表の方もいらっしゃると思いますので。

浅野目会長： JRの関係については事務局からお話がありましたが、市としても承服できないことであり、現状のまま維持したいということでやっています。そこは同じ思いでやっています。それをここで議論したとしても、例えば、市が減便や駅の無人化を良としていて、利用者の利便性を損ねるのであれば分かりますが、減便しないで欲しいという思いであり、市や管内もそのようなスタンス動いておりますので。

高橋副会長： あくまで法定協議会なので議論出来ることと出来ないことがあると思います。しかし、この公共交通会議というのは、バスの事についてやりますが、当然それを議論する前提として、その周辺の公共交通一般の話はすべて頭に入れておきながらバスをどうするのかを考えなければならないと思います。ですから、その他などでフリーディスカッションを設け、皆さんがどう考えているのかは議論しておいた方がいいと思います。しかし、ここの議論の結果が、そのまますぐJRの方に反映されるとか、福祉の方に反映されることは会議の性格上、出来ないと思います。利用促進の事を考えると1番のポイントは料金制度だと思っています。いくら便数を増やしても料金払うか払わないかで、バリアが高くなったり低くなったりします。そういうことを全部踏まえた上で、この会議としてバスのこの部分に関しては、どのようなことをやるのかというのは、全体を分かった上で議論した方がいいと思います。これは個人的な見解ですが。

浅野目会長： 私は公共交通会議を立ち上げた時に関わっていたのですが、1番最初の会議の時に高齢者・障がい者の無料パス制度に関して意見が出たことを覚えています。しかし、この会議の性質上、その制度についてこの会議で議論していくことは難しいということで、今後もそのような認識で、この会議を進めていくということを確認したという記憶があります。会議とは別に、会議終了後に意見交換をすることは可能かと思いますが、ご理解いただければと思います。

他にございますか。ないようですので、次回の会議の開催について事務局の方からお願いします。

田中課長： 次回の会議の開催につきましては、1月中旬から下旬での開催を予定しております。案件につきましては、温根湯一厚和間スクールバスの住民利用と公共交通の利用促進等を予定しております。ご案内につきましては、改めて送付させていただきますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上です。

浅野目会長： それでは、本日予定していた内容につきましては全て終了させていただきました。交通マップ等ご意見をいただいた点については反映していきたいと思います。まだ時間がございますので、引き続きご意見があれば事務局の方までご報告いただければと思います。

それから、先ほど長南委員からありました通り、高齢者のアンケート調査結果等については情報提供いただけるということでしたので、そのような取り扱いについても今後検討していきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

それでは以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。(14:55)